

公共交通の進化が 地域の価値向上に与える影響

SERVICE DESIGN

CONSULTING

ANALYSIS

MICROTRANSIT

ON DEMAND

PRESCHEDULED

PARATRANSIT

ADA and non-ADA

NEMT

FIXED ROUTE

PLANNING

SCHEDULING

MaaS

CITYMAPPER

MULTI/INTER MODAL

2026年1月29日



アジェンダ

01 Viaの概要紹介

02 交通とウェルビーイングの関係

03 事例紹介



Via Mobility Japan

01 Viaの概要紹介

PRESENTED BY

Via Transportation / Via Mobility Japan

Viaの概要：世界最大の公共交通ソリューション提供グループ

800+

都市に導入

40

カ国に展開

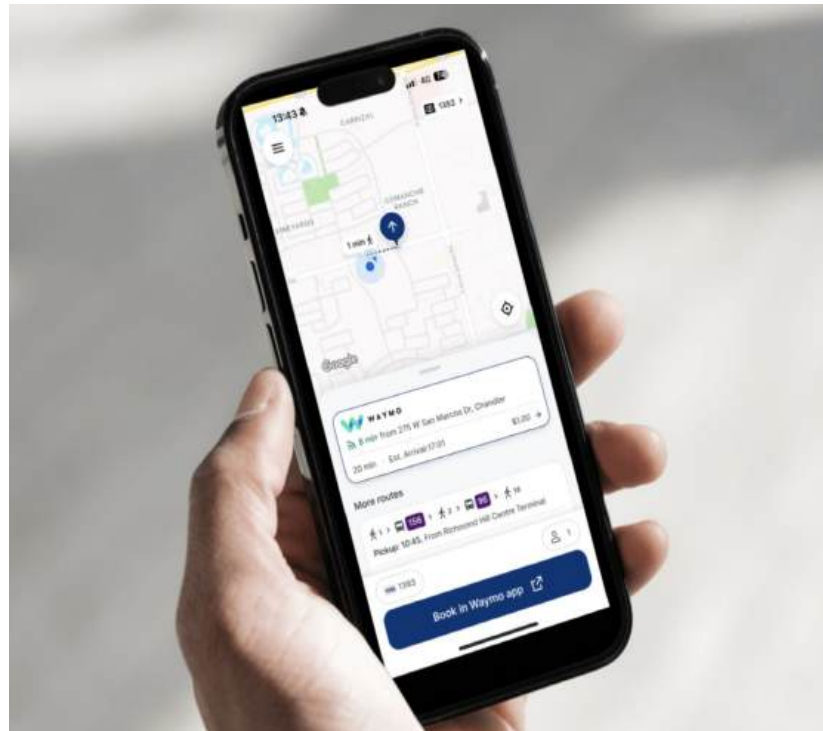
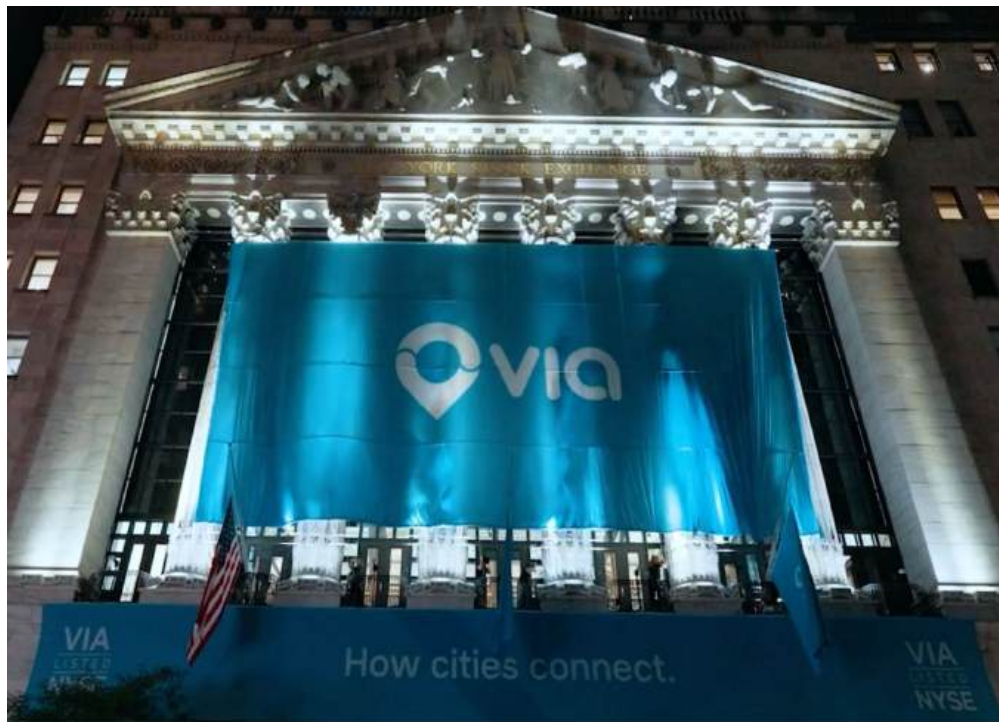
1.6億

乗車数(累計)

AIオンデマンド交通提供 実績：18年
開発投資額：1,000億円以上
開発体制：600名

TRINITY METRO

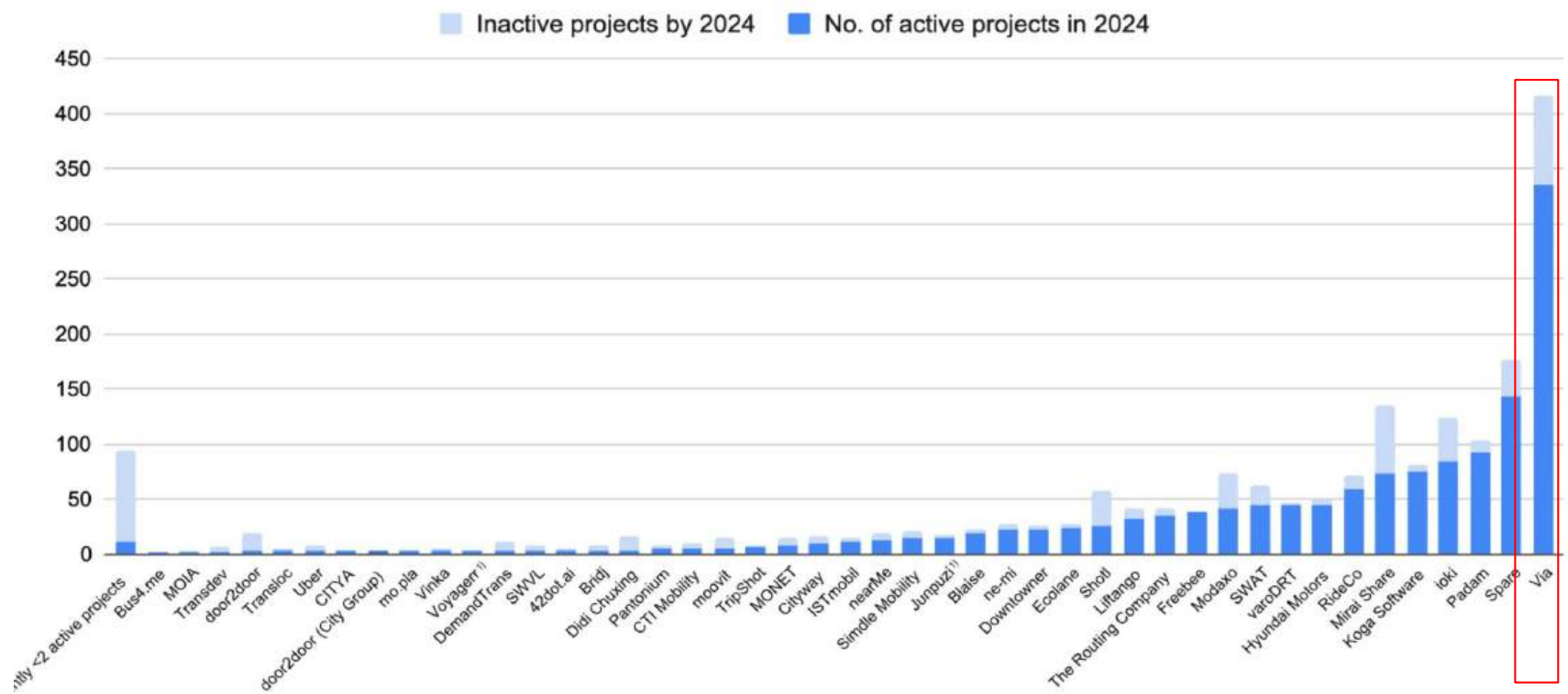
2025年9月 ニューヨーク証券取引所に上場・Waymo社との提携を発表



世界の導入件数NO.1

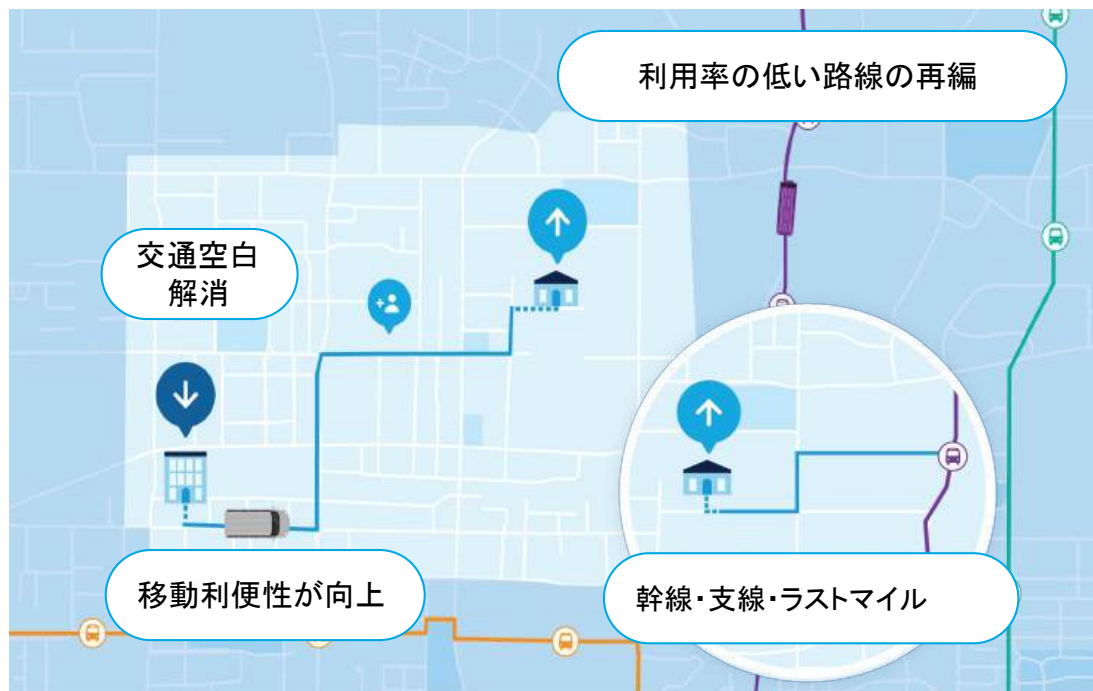
ViaのAIオンデマンド交通システムは累計で世界800以上の都市の住民に1.3億回累積乗車
世界最大の交通ビッグデータを活用したAIを提供

Number of On-Demand Transportation Projects by Tech Provider



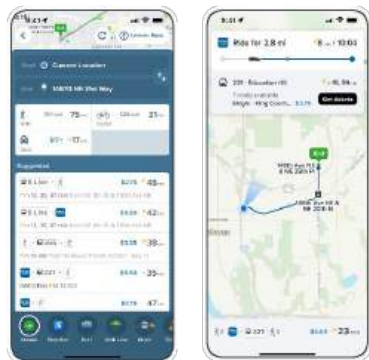
全ての交通モードをフル活用・地域全体をリ・デザイン

- 1 既存の交通網と主要な目的地を繋ぐための穴を埋める
- 2 既存の定時路線と接続することで、最終目的地までの移動を補完する
- 3 収益の低い提示路線を廃止してオンデマンド交通で代替える
- 4 高齢者・障がい者・福祉施設や通勤者の移動利便性を向上



交通データの収集・分析・運行までシステム統合しワンストップで提供

統合された経路計画 観光サービス



統合的な交通網の計画



オンデマンド交通

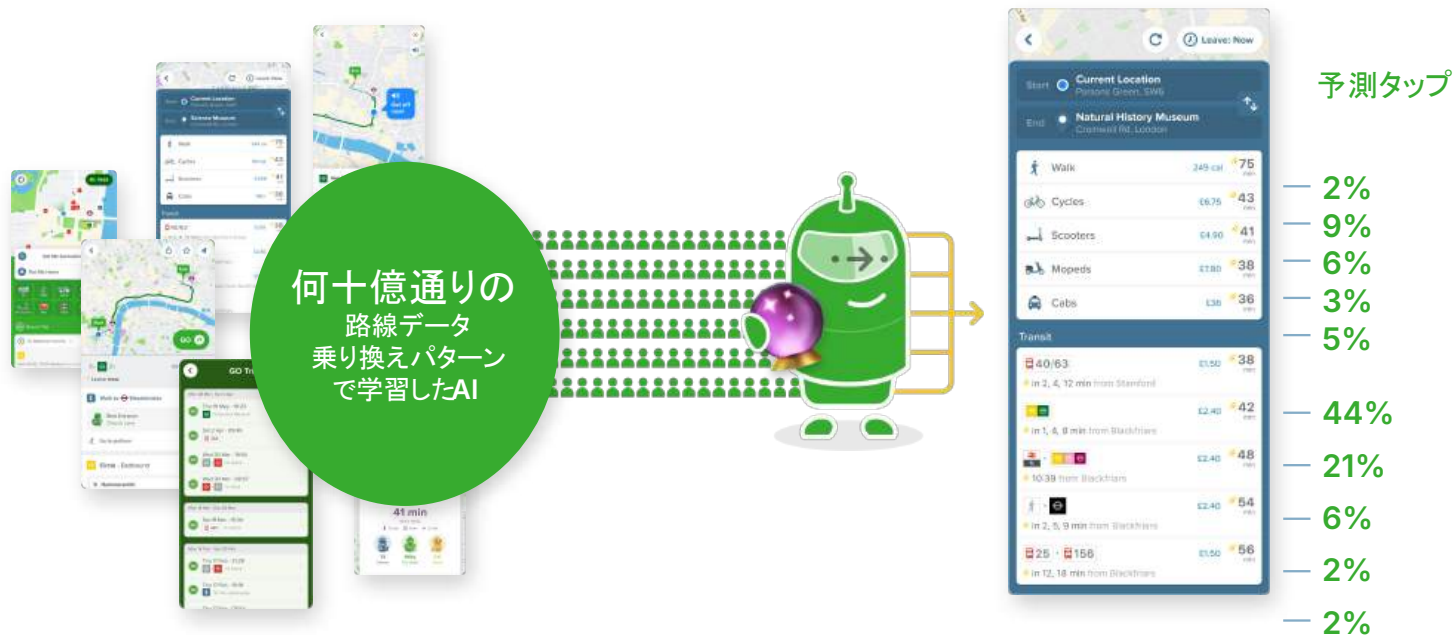
オンデマンド公共交通

介護・福祉送迎

スクールバス

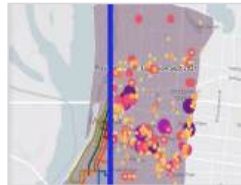


世界最大級のMaaSアプリ・約5,000万人が利用 →ユーザーの乗り換え検索から交通ビッグデータを収集



あらゆるオープンデータを一つのプラットフォームで分析 →分析・課題抽出・解決策の提案まで一気通貫で実施(EBPM)

計画



バス運行
計画



オンデマンド交通



乗り継ぎ検索
一括予約



データ収集
と分析



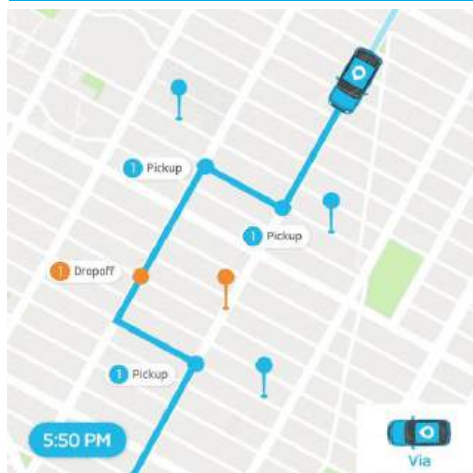
ViaのAIオンデマンドの特徴①

ターゲットによって配車方法を多様に提供

～高い運行効率を確保しながら交通弱者向けサービスを両立～



AIがおすすめを選ぶ(効率)



一般向け・若いアプリ利用者
(最も近いルートまで歩く)

一番近いバス停が選定される



高齢者向け
(最寄りのバス停までしか
歩かない)

ドアツードア

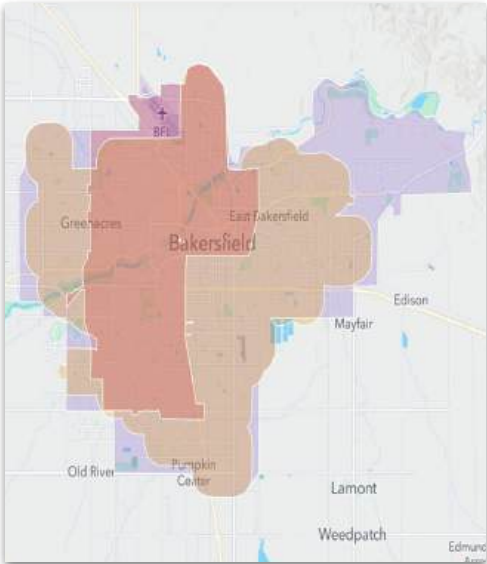


介護向け
(基本的に歩かない)

ViaのAIオンデマンドの特徴②
複数のサービスを共同配車することでドライバー稼働率を向上



米国カリフォルニア週
バーカーフィールドの例



人口: 407,615
面積: 391.8 km²

	一般向け	介護送迎 ＜優先レーン＞	通院 ＜優先レーン＞
対象利用者	全ての住民・来訪者	福祉で補助対象になっている介護施設利用者	送迎サービス対象の通院者
運行エリア	139平方キロメートル	380 平方キロメートル	297平方キロメートル
料金計算方法	移動距離に応じて	固定価格	病院の料金に含まれる
予約方法	アプリと電話予約	電話予約のみ	診察とまとめて予約
移動の特徴	即時予約 仮想バス停とドアツードアの利用	事前予約 ドアツードア 必ず配車する	事前予約 ドアツードア 必ず配車する

一つのシステムに束ねることで

20%

1時間あたりの乗車人数が増加

2倍

ドライバーの勤務時間中で実際に乗客を乗せている時間が増加

ViaのAIオンデマンドの特徴③

独自のAIアルゴリズムが高水準の輸送効率を実現



- 1台あたりの輸送客数が運行収支率に直結
- 同一の面積に対して何人輸送できたのか比較

国内の運行効率比較例

システム	他社	Via	Via	他社	Via
場所	A市	B市	C市	D市	E市
人口	65,000	56,000	25,000	6,600	5,700
運行面積	38km ²	81km ²	30km ²	64km ²	224km ²
車両台数	6	8	4	2	5
1日の乗車人数	170	250	150	36	160
1時間1台あたりの乗車人数	2.2	2.8	5.7	2.25	4

海外の運行効率・サービス拡大の比較例

両社最大マーケットの北米における
最も運行効率が高い事例*
1時間1台あたりの乗車人数



テキサス州のサービスで競合の実証を経て本格運行はVia
に切り替え、1ヶ月以内で同じゾーンで乗車人数が2.2倍
に増加**



*ソース: 2022年末アメリカ連邦公共交通局のレポートデータ

**ソース: 該当サービスの仕様書と自社データ



Via Mobility Japan

02 交通とウェルビーイングの関係

PRESENTED BY

Via Transportation / Via Mobility Japan

本日の事例紹介のコンセプト：交通とウェルビーイングの関係性



経済機会

就労場所へのアクセス
通勤時間の短縮
広域雇用圏への接続



医療アクセス

病院・クリニックへの通院
予防医療へのアクセス
健康維持の機会確保



教育・子どもの移動

通学手段の確保
安全な移動環境
保護者の送迎負担軽減



高齢者・移動困難者

買い物・社会参加の維持
自立した生活の支援
ドア・ツー・ドアの利便性

社会インフラとしての役割

- ✓ 既存の鉄道・バス網と接続し、ラストワンマイルを補完
- ✓ 生活必需サービスへの物理的な障壁を取り除く
- ✓ 「移動の効率化」を超え、地域全体の「機会の拡大」を実現

生活の質（QOL）向上への寄与

雇用・経済機会へのアクセス改善

事例：米国複数都市における就労アクセス拡大の効果

📍 Tri MyRide (カリフォルニア州)

45分以内に到達可能な仕事数

+120%

固定路線バスのみの場合と比較した到達可能雇用数の増加率

📍 Seattle MetroFlex (ワシントン州)

アクセス可能な職場数

12.8k **45k**

オンデマンド交通導入によりアクセス圏が大幅に拡大

📍 Jersey City (ニュージャージー州)

地下鉄駅が目的地の上位を占め、NY都市圏への通勤ハブとして機能

運転手の60%を市内から採用し、地域内雇用も創出

📍 Birmingham (AL)

10%→90%

公共交通でアクセス可能な
仕事の割合が劇的改善

📍 Wilson (NC)

75%

夜間・第三シフト労働者の
通勤利用（20時-7時）



広域雇用圏への接続強化

マイクロトランジットがBART（鉄道）やPATH（地下鉄）などの広域交通網への「フィーダー（支線）」として機能することで、自宅周辺だけでなく広域の雇用機会へのアクセスを実現している。

♥ ウェルビーイングの観点

就労機会の拡大が生活の安定をもたらす

自家用車を持たない層や深夜勤務者も含め、より多くの人々が多様な仕事に就くことが可能になり、経済的な自立と生活の質の向上に寄与している。

医療アクセスの改善

事例：Tri MyRide（米国カリフォルニア州）

📍 カリフォルニア州 コントラコスタ郡

Tri MyRide マイクロランジット

地域のバス路線網を補完するAIオンデマンド交通サービス。Antioch、Pittsburg等の都市と広域鉄道BARTを結び、医療・生活拠点へのラストワンマイルを解消。

主な接続先

🏥 郡立ヘルスセンター

🏠 総合病院（2施設）

👤 民間医療グループ拠点



5
つの主要医療拠点へ
直接アクセス可能に

~1,000
回 / 年
医療目的での利用実績（2024年）

40
%
BART駅（広域鉄道）との接続利用
※広域通院ネットワークの一部として機能

♥ ウェルビーイングの観点

「通院のしやすさ」が健康維持を支える

自家用車を持たない住民でも、郡のクリニックや主要病院へ確実にアクセスできる手段が確保され、予防医療や定期通院の継続が可能になっている。

子ども・学生の移動の改善

事例：Appleton Area School District（米国ウィスコンシン州）

📍 ウィスコンシン州 アップルトン学区

スクールバス代替輸送モデル

従来のスクールバスでは対応困難な生徒（住居不定、特別支援等）向けにAIオンデマンド交通を導入。一貫したドライバー体制とリアルタイム追跡で「安心・安全」な通学を実現。

導入の特徴

👤 生徒ごとに一貫した担当ドライバー

📱 保護者向けリアルタイム通知

🏠 特別支援生徒への柔軟な対応



4,400+

乗車

サービス開始後の通学利用（2024年9月～）

135

% 増加

支援を提供できる生徒の数

100

%

担当ドライバー制による安心感

※各生徒に固定のドライバーを配置

👤 ウェルビーイングの観点

教育機会の保障と保護者の負担軽減

あ移動手段の欠如による不登校や遅刻を防ぎ、教育へのアクセスを確保。同時に、保護者の送迎負担や移動に対する不安を軽減することで、家庭全体の生活の質向上に寄与している。

高齢者・移動困難者の生活の質向上

事例：Sarasota County (Breeze Transit) / Cutler Bay (米国フロリダ州)

📍 フロリダ州 サラソタ郡 / カトラーベイ

福祉送迎と地域移動の統合

従来のパラトランジット（障害者向け移動支援）と、一般のオンデマンド交通を統合的に運用。予約の柔軟性と効率性を高め、高齢者や移動困難者の日常の足を確保。

主な対象者・用途

🚿 介護・障害認定の移動困難者

👤 高齢者の通院・買い物

🚑 退役軍人向け医療輸送の統合



12

%

定時運行率（On-Time Performance）の改善

※効率化により待ち時間・遅延を削減

500

+ 回 / 日

ADA障害者向け交通の利用実績

（ADA = 1990年に米国で制定された主要な公民権法で、障害を理由とする差別を禁止する）

Cutler Bayでは、オンデマンド交通が

「地域内移動の足」として定着

（買い物、通院、コミュニティ活動への参加を促進）

♥ ウェルビーイングの観点

「自立した生活」と「社会参加」の維持

移動の自由度が向上することで、他者の介助に頼りすぎず、通院や買い物を自ら行える環境が整う。これが高齢者の社会的孤立を防ぎ、精神的なウェルビーイング向上に寄与する。

まとめ：AIオンデマンド交通とウェルビーイング

Via Transportation 海外事例からの示唆

“

オンデマンド交通は、
単なる「移動の効率化」を超え、
地域のウェルビーイングを支える
基盤インフラである

Viaの海外事例が示すのは、所得やGDPの直接的な増加以前に、その前提となる「生活の質」と「機会の平等」が交通によって底上げされているという事実です。



必需サービスへの「アクセス改善」

医療・教育・食料品店など、生活に不可欠な拠点への物理的なアクセス障壁を一貫して低減させています。これにより、健康維持や教育機会の確保といった社会的価値が創出されています。



既存交通の「補完と最適化」

鉄道や幹線バスと競合するのではなく、それらへの接続（ファースト/ラストワンマイル）を強化することで、広域経済圏へのアクセスを可能にし、就労機会を拡大させています。



包摂的な「自立支援」

高齢者、学生、障がいを持つ方など、自家用車利用が困難な層に対して、誰かの送迎に頼らない自立した移動手段を提供し、社会参加と家族の負担軽減を同時に実現しています。

出典一覧

本資料で使用した主要な参照元（2025年1月時点の公開情報）

📖 Via Transportation 公式ケーススタディ・記事

Boosting regional economic development (Tri MyRide)

Via Transportation | Case Study

<https://ridewithvia.com/resources/boosting-regional-economic-development-with-one-of-the-nations-most-successful-microtransit-services>

How microtransit helps people get to work

Via Transportation | Article

<https://ridewithvia.com/resources/how-microtransit-helps-people-get-to-work>

Jersey City Case Study

Via Transportation | Case Study

<https://ridewithvia.com/case-study/jersey-city>

Appleton Area School District brings trust and reliability...

Via Transportation | Case Study

<https://ridewithvia.com/resources/appleton-area-school-district-brings-trust-and-reliability-to-student-transportation>

Sarasota County boosts paratransit efficiency...

Via Transportation | Case Study

<https://ridewithvia.com/resources/sarasota-county-boosts-paratransit-efficiency-and-passenger-experience>

🏢 自治体・交通局 公式発表資料・サービスサイト

Breeze Plus (Paratransit Services)

Sarasota County (Florida)

<https://www.scgov.net/government/breeze-transit/breeze-plus>

Town Transportation / MetroConnect

Town of Cutler Bay (Florida)

<https://www.cutlerbay-fl.gov/publicworks/page/town-transportation>

MetroFlex (Via to Transit)

King County Metro (Washington)

<https://kingcounty.gov/depts/transportation/metro/travel-options/on-demand/via-to-transit.aspx>

RIDE Wilson

City of Wilson (North Carolina)

<https://www.wilsonnc.org/>

Build Better Transit in Miami with MetroConnect

Via Transportation | Project Page

<https://ridewithvia.com/miami>



※本資料に掲載されている数値や成果は、各参照元の公開時点の情報に基づいています。
※URLは資料作成時点（2025年1月）のものであり、将来的に変更される可能性があります。



03 事例紹介

- ① AIオンデマンド交通
- ② データ分析

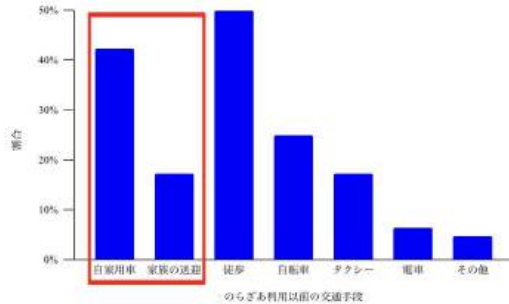
国内で40件の導入・各地に根ざしたローカルパートナーとの連携



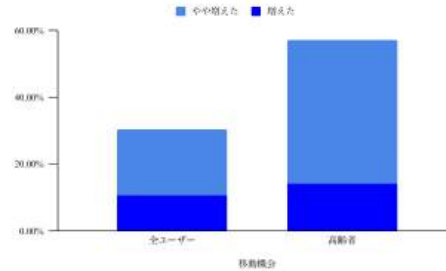
長野県茅野市 AIオンデマンド交通 x 地域力の向上 子育て世代の家族送迎からの解放・土地の価値向上

新たな客層の開拓

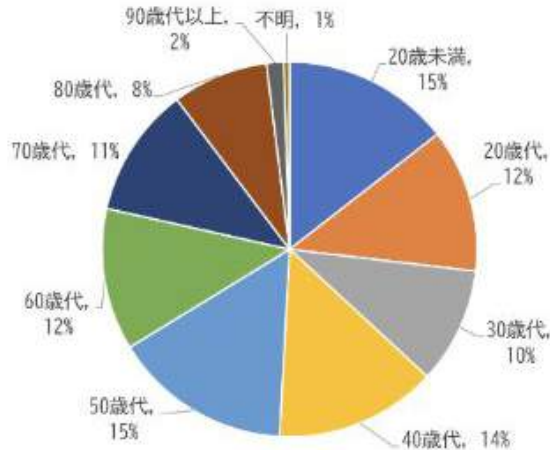
「自家用車・家族送迎・徒歩」からのシフト



高齢者の外出機会の増加



*2020年12月～2021年5月データ



- 登録者数：16,000人
- 全体のアプリ予約 43.9%
- 50代以下アプリ予約70%



いつ呼んでも来てもらえるし
運賃も安いし通院も楽です

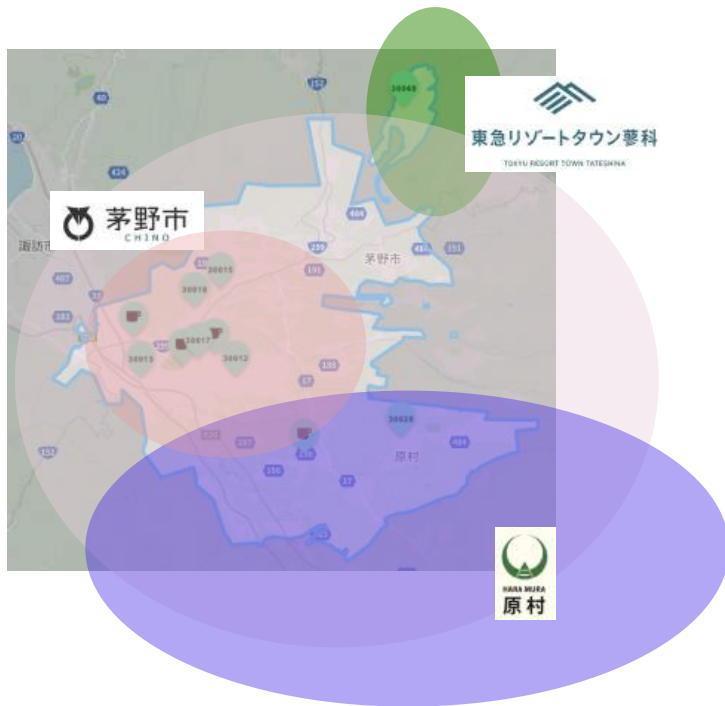


自分の好きなところに親にお願いしないで
行けるということがすごく便利です



家族の送迎の時間が減って家事ができたりと
いうところが非常に助かっています

茅野市から・原村・東急リゾートタウンへ広域拡大 自治体を超えて生活圏域全体の地域力が向上



茅野市市街地全体
4台運行(4社)

茅野市中心地区6台(4社)

- 茅野市全体を走行する0台のうち数台だけは中心地区内のみを走行する。
- 中心地区を超えた移動が伴う予約は、中心地区担当の車両には割当たらない。
- 利用者からはゾーンが別れているわけではなく、ドライバーのシフト作成時に、日によって1号車は中心地区担当2号車は全体担当と
いうようにシフト上で担当エリアを柔軟にし指定できる。

原村
2台運行、中央病院など一部茅野市にも乗降可能

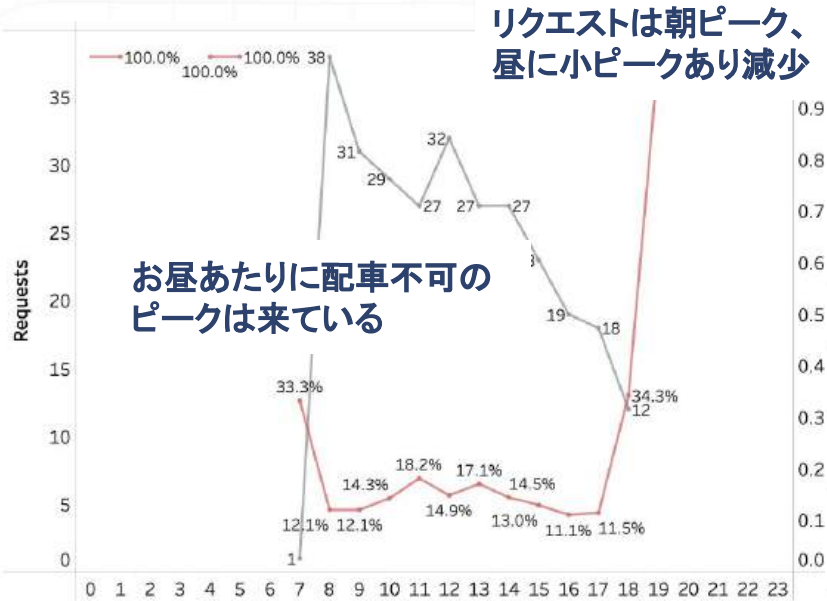
東急リゾートタウン蓼科
1台運行、リゾート内限定の無料送迎サービス

データを活用：最新の需要分布や人流に合わせたシステムの変更・チューニング

需要が集中する中心ゾーンのみの予約を
割り当てる車両をバックエンドで区分



需給バランスを分析し
車両の稼働時間を細やかにチューニング



データ分析・Remix活用事例：データに基づく政策判断（EBPM）



佐賀市

AIオンデマンド交通導入に向けた事前評価



- ✓ 地区別評価による導入エリア選定：運行前に市内全域を地区別に詳細評価し、最初に導入すべき優先地域をデータに基づき絞り込み。
- ✓ 運行シミュレーションの実施：AIオンデマンド交通の実装を想定したシミュレーションを行い、実現可能性を検証。



熊本市

既存交通網の可視化と合意形成



- ✓ 交通網の完全可視化：市内5つのバス会社が運行する全路線データを読み込み、現状のネットワークをデジタル上で再現。
- ✓ 参加型ワークショップの開催：5つのエリアで「ベストミックス」を検討。市職員と交通事業者が参加し、異なる立場の声を計画に反映。



八代市

学校再編に伴う移動手段確保と赤字路線評価



- ✓ 子どもたちの移動手段確保：部活動の統廃合を背景に、生徒の移動需要を分析し、最適な交通手段を検討。
- ✓ バス赤字路線の評価：持続可能な交通網維持のため、既存の赤字路線のパフォーマンスを客観的に評価。



会津地域（広域）

バスとAIオンデマンドのハイブリッドサービスの分析・計画・設計



- ✓ 産官学連携ワークショップ：複数自治体が連携し、学識経験者も交えた実践的な交通見直しワークショップを開催。
- ✓ ハイブリッドアプリの実装分析：路線バスとオンデマンド交通を統合的に利用できるアプリ実装に向けたデータ分析を実施。

お問い合わせ先

**Via Mobility Japan
株式会社**

info@viajapan.co.jp

ご清聴ありがとうございました。
